

## 円安と新しい生産基準における国内生産の可能性

令和6年4月11日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらはグローバリゼーションにおける新しい国内企業への理解が、円安における新しい輸出の可能性とともに存在することへの提言である。

先端の生産環境は、優れた生産性を有し、国内生産拠点における新たな輸出の可能性を提案できるものである。国内製品の製品基準は必ずしも劣るものでないため、これらは新たな企業に対する機会であることは正しいのである。

これらはゼロ金利と過去数年における円安における輸出環境などにおける企業体力の強化は、新たな生産設備投資を可能とし、これらが先端生産基準における企業構築を与え、グローバル市場への新たなアクセス機会を創出できるものとする。

これらは企業戦略の転換であり、グローバル戦略が、新たな可能性と洋お灸を有することへの正しい選択であるとする。

これらは時代性への到達が新たな生産環境への転換を必要とすることであり、これらコスト的な優位性は円安とともに、グローバル市場における製品提供への新たな可能性を企業へ与えるものであるとする。

これらは時代先端性における生産環境への投資は必ず要求される現実であり、企業華僑の再構築は、企業の世界戦略とともに、さらなる未来への新しい現実の創出を実現できるものとする。これらは国内企業が製品においてグローバル基準へ到達し、これら新たな環境は企業の資本力の大幅な強化を実現している得ものであるとする。

これらは発想と戦略の大幅な転換であり、海外工場における生産とともに、世界戦略と新しい自己企業の生産投資と整備における企業の万全性の構築を再度模索することができるのである。

これら大きな企業におけるアドバンテージは、海外における生産拠点とともに、先端生産システムへの移行と世界戦略におけるグローバル企業としての確立を実現できるのである。